

環境保全をはじめ、防災力を次世代につなげる地域づくり

養田まちづくり委員会 会長 ○小田 稔

1. 活動方針・目的

阪神淡路大震災を契機に、「地域づくり」がいかに重要かを痛感し、地域の活動を強化した。まだ記憶に新しい兵庫県佐用町の水害は、我々河川沿いの地域にとっては、決して他人事ではなく、平時からの備えを万全に整える必要があり、少しでも減災となるよう活動を継続している。目標は、当地域から犠牲者を一人も出さない事が原点であり今後もこのために活動を展開していく。

2. 活動内容

活動の発端は、地域に流れる養田川の改修問題。小さな小川であったが、土地区画整理事業により川の付替え工事の計画が持ち込まれた。しかし、我々にとってはこれまで慣れ親しんだ貴重な自然空間のため、小川がコンクリートの水路になってしまうことに皆が戸惑い、地域の声によって小川は残しつつ改修として必要な工事（バイパス水路の設置）を進める方針に変更させた。結果として、これまで通り自然豊かな養田川と新しいバイパス水路の2つの川が地域に残った。この一連の地域のアクションがきっかけとなり、地域では養田川の愛護精神が目覚め、年々環境が悪化する養田川の清掃活動が始まった。以降は毎年地域としてクリーン作戦を展開し、地域の絆を醸成することにつながった。これを基盤として地域をより住みよくするため、各種活動を展開中。特に、防犯・防災力の向上には積極的に活動しており、東日本大震災をきっかけとし、一層力を入れている。今では皆が地域づくりの活動に誇りをもっている。

3. 他の活動団体の参考となる事例

東日本大震災により、地域防災力向上のため自主防災組織の活性化などが課題となっている。例えば、防災訓練は他地域でも実施されているが、これを継続することや有効な訓練になるよう苦慮するケースが多い。当委員会ではこれまで、防災訓練の高度化を目指してきた。地域のシンボルである養田川の定期的なクリーン作戦から、子どもを重点的に活動へ呼び込むことで安定した参加者を獲得し、夏祭りや秋祭りにも自主的に参加する者が増えるなど好影響となり、世代間交流が図れた。特に、中学2年生の「トライやるウィーク」を兼ねたイベントとし、清掃活動はもちろん、田植え→稲刈り→しめ縄づくり→餅つき大会→防災訓練での炊き出しで餅をふるまったり、餅を高齢者住宅へ配布のため友愛訪問したり、地域の繋がりを築き上げ、これがイザという時に地域の防災力として有機的に機能すると思われる。活動を上手に展開し継続させるためには、子どもを重点的に参画させることに尽きる（子どもを取り込むには楽しさが必要）。他の活動団体との交流も深め切磋琢磨していることが良い刺激となり活動の発展につながります。

4. 今後の課題等

これまで子どもを地域の活動に取り込んできましたが、子どもは大きくなり大学生や社会人となると、地域から離れてしまうことも珍しくありません。これまで一緒にやってきた子ども達が大きくなって、指導する側で活躍してくれることを我々は心待ちにしていますが、20代の方を地域活動に取り込む工夫があれば参考にさせて頂きたく思います。また、最近では津波の高さと到達時間の想定見直しが発表されましたが、各市町村単位となっています。これを細分化する必要があり、特に加古川市では南北に広く当地区では海岸や加古川から近いいため、津波による浸水が懸念されています。

環境保全をはじめ 防災力を次世代につなげる



養田まちづくり委員会
会長 小田 稔
約500世帯
人口1,500人
兵庫県加古川市尾上町養田

1

養田地区の取り組み内容

概要

- 東日本大震災はもとより、東海・東南海・南海地震を想定して、情報の迅速かつ正しい伝達のルール化を見据えて活動する。
- 特に独居者・障害者等の個別把握、災害時の対応策をやっている。
- 毎年3月には、防災施設の見学と防災活動地域へ出向き交流を深めている。

目的及び目標

- まずは、阪神・淡路大震災を機に地域づくりがいかに大切かと活動を強化した。
- 一昨年の佐用町の水害を目の当たりにし、平時からの備えを万全に行い、減災につなげようと考えた。
- 目標は、当地域から犠牲者を出さないことが一番の原点である。
- また、子供達を絡めた活動を重要視している。子供が参加すれば親はついて来る。

自分の命は自分で守る

2

防災訓練・クリーン作戦(1)



平成23年3月 兵庫県人と防災未来センター



平成21年12月 防災訓練で消防団員を公会堂屋根から救出



平成20年12月 防災訓練での人命救助実習

毎年、加古川市消防本部の協力を得て

- 消火訓練
- 人命救助訓練

3

防災訓練・クリーン作戦(2)



平成23年12月 消火器での消火活動



平成19年12月 県の起震車を迎えて地震体験



平成22年12月 翌日の炊出し訓練用のもちづくり
(友愛訪問とぜんざい用)
トライやるウィークのメンバーたち(中学2年生)



平成20年12月 炊出し訓練でのぜんざいの配給

4

防災訓練・クリーン作戦(3)



平成23年7月 地域内のお寺(法音寺) 子供達も参加の防災クイズ



平成20年12月 防災訓練にて腹話術を楽しむ。 子供が来れば親も来る。人集め手段



平成23年5月 老若男女総出の新養田川クリーン作戦



平成22年7月 真夏日での旧養田川の草刈

5

宮城県宮城郡七ヶ浜町中央公民館でもちつき大会 人口約2万人、死者58人(昨年12月末現在)



主催：ひょうご交流人クラブ、
復興支援ネットワーク淡路島
協力：ひょうごボランタリープラザ
七ヶ浜町婦人会他

町役場の役割りを 見直そう

- 当時、役場には、一応の防災機器は備えていた。
- ただ、職員がテントの組立てができない。
- 炊き出しのうどん程度なら可能だが、カレーライスとなると、100人、200人分となれば具材の必要量が誰もわからない。

6

七ヶ浜町中央公民館



- 昨年12月23日、24日の2日間この公民館でもち米400kgのもちつきを実施。もち米は現地産を購入し、もちつき器材はこちらから持参。
- 7ヶ所の仮設住宅(約390戸)へ正月用のおもちとして各戸へ配布。
- 仮設住宅開設当初は孤独死(自殺)も発生した。

七ヶ浜国際村、七ヶ浜町中央公民館
上空から南方面を撮影
(平成23年3月13日撮影)

7

七ヶ浜町もちつき大会



七ヶ浜婦人会の役員さんがお手伝い
電動もちつき機10台



もちを公民館で仮設住民に渡している



サンタの衣装を着けてのもちつき
木うす1基



もちの配給を待つ人

8

七ヶ浜町の現況(平成23年12月24日)



- 海岸から約100mに位置する住宅の基礎の残骸。
- 松の木はほとんど枯れかかっている。
- 復旧・復興の妨げは放射能がれきの受入れ先がない。

がれきのピラミッドが
あちらこちらに点在。

↑
天国と地獄



(白砂青松)

- 防波堤から海側はゴミもきれいに片付き、夏は海水浴の名勝。

9

タイの洪水(プライベートでの旅)



(昨年9月、タイ国アユタヤ地区)

洪水の国と言われるタイで道路の両側に土のうを積み重ねて車道を確認している。

その後、バンコク中心部まで広がり、日本の企業のほとんどが被害を受け、特に自動車メーカーは大打撃を受けた。

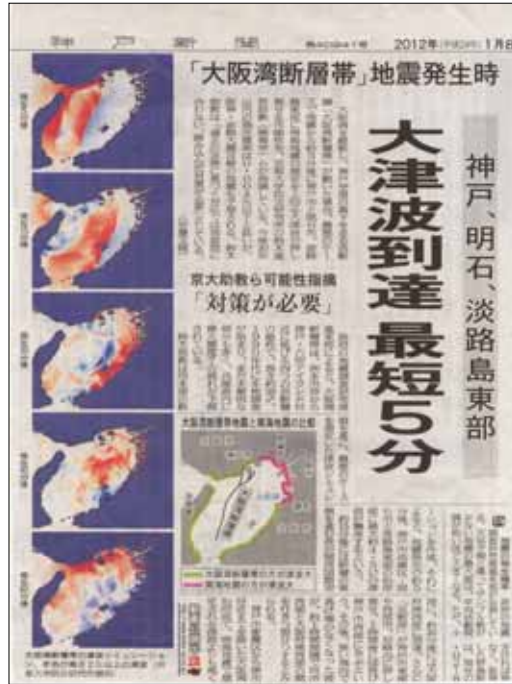


民家が浸水している

住宅地と言っても海拔0mに近い所がほとんどで、ある意味洪水に慣れており、国民はそんなに深刻に考えていなかった。(当時)

10

大津波



11

今後の課題

継続は力なり!

防災 = 減災

(現状)

- 毎年防災訓練・クリーン作戦継続中
- 防災資機材一式在庫
- 土のう袋：1,000袋
- 土のう用土：約10トン
- 一戸一灯運動の展開
- 家具の転倒防止
- 炊出し訓練
- 防災クイズ
- 子供を絡めての活動
- フェニックス共済の啓蒙活動

(今後)

- 災害弱者の支援体制づくり
- 民生委員と協力(要支援者の把握)
- 共助の育成 行政とタイアップ
- 避難場所の明確化とルート設定
- 防犯灯の増設(現在約170灯)
- 津波到達時間の想定
(加古川市では3.85mで、
110~120分想定)

正しい情報をタイミング良く!

長期的な展望

- 主要道路の立体交差(陸橋)の設置
- 歩道橋の見直し(頑強である)

高台としての
避難場所の役割

防災意識の底上げが重要



12

これまでの活動経緯

地域住民による防災訓練と町内一斉クリーン作戦他

実施場所	期 日	参加者
養田公会堂	H10.4月～ H15.12月	約300～350人
養田公会堂	H16.12月	350人
養田公会堂	H17.12月	370人
養田公会堂	H18.12月	385人
養田公会堂	H19.12月	400人
養田公会堂	H20.12月	420人
養田公会堂	H21.12月	440人
養田公会堂	H22.12月	450人
養田公会堂	H23.12月	400人
養田町内	毎年8月	夏祭り 300人
養田町内	毎年10月	秋祭り 500人

先進地視察

実施場所	期 日	参加者	実施内容
神戸市	H16.12月	15人	神戸市深江地区での緑化で類焼防止
姫路市	H17.2月	22人	姫路市別所町の集落内に消防車が入れるように道路の角切り
神戸市	H18.2月	33人	神戸市南森町の町内道路のセットバックの実施
龍野市	H19.3月	25人	龍野市本龍野町の地域連帯力の強化対策研修
三木市	H20.2月	29人	三木市自由丘連合自主防災会と交流研修
三木市	H21.1月	21人	県の防災センターでの火事の中での避難訓練と施設見学
佐用町	H22.2月	25人	一昨年の大水害のお見舞いと現地視察、住民の生の声を聞き取り
神戸市 淡路市	H23.3月	24人	東日本大震災の翌日、県の人と防災未来センターと北淡路の野島断層の視察（2ヶ月前より計画していたため中止出来ず）

研修会参加

実施場所	期 日	参加者	実施内容
東京都	H18.9月	1名(代表)	全国地域づくりコーディネーター研修会参加
茨城県	H20.2月	1名(代表)	地域づくり全国研修交流会 茨城県大会参加
青森県	H22.11月	1名(代表)	地域づくり全国研修交流会 青森県大会参加
仙台市	H23.9月	1名(代表)	全国地域づくりコーディネーター研修会参加
その他			近隣地区(市内・市外)との防災・環境関連の交流会に参加し、良いところをまね、また、我々の活動を他地域への展開につなげるべく努力しています。

最近の表彰暦

平成15年4月	兵庫県知事環境保全活動賞
平成17年6月	国土交通大臣まちづくり功労賞
平成22年3月	ひょうご安全の日推進県会議 県知事賞
平成23年11月	国土交通省近畿地方整備局長 ゆめづくり・まちづくり優秀賞